



街路樹



授業改善講座より



チャレンジホームの活動について

小・中学校学習指導要領解説国語編に「『教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表現された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である』と指摘されているところである。」(p.8)という記述があります。

7月25日(月)に実施した授業改善講座で、講師に、教育のための科学研究所 上席研究員 目黒 朋子先生を迎え「読解力を育むための授業づくり」について講義・演習を行いました。「教科書を読み解ける児童生徒を育成していきましょう」という先生のお話から、次のような読解力のポイントを教えていただきました。

【読解力の基本とは】

- 構文を正しく解析し、「誰が」「何を」「どうした」が分かる。
- 指示詞が指し示すものが分かる。また、省略されている主語・目的語が分かる。
- 2つの文を比較し、それらが同義であるか否かを理解できる。構造的な同義文、語彙的な同義文、論理的な同義文など。

これらができないと、模範解答と自分の解答の比較ができないため、自力で学習を進めていくことが難しい。

【思考に関わる力とは】

- 小学校卒業までに日常生活や学校で身に付けると期待される常識と、論理を用いて与えられた文から推論する。
- 提示された文を読み、それがどのようなことを表しているか具体的にイメージできる。
- 概念または用語の定義を読み、それがどのような状況に当てはまるかを具体的に認識できる。

例えば、小6国語「海の命」の文中「太一は鼻面に向かってもりを突き出す」「もりの刃先を足の方へ向け」などの表現から、太一の状況を具体的にイメージできることで、心情の理解につながる。

演習ではこれらの読みができるように、実際の教科書を見ながら、児童生徒が読み誤りやすいところを見つけ、どのように指導するかを考えました。様々な家庭環境にある児童生徒ですが、教科書は必ず全員がもっています。教科書を有効活用する方法を学校全体で考えていきましょう。



通常のチャレンジホームでは、市内4カ所の教室で、それぞれの生活スケジュールに合わせ、学習やスポーツ、読書や作業などをして過ごしています。しかし、1年間に9回ほどは、合同行事として、市内の4つのチャレンジホームの子どもたちが一同に集まって活動しています。おもな合同行事を2つ、ご紹介します。

6月17日(金)に実施したICTを活用した学習会とSST(ソーシャルスキルトレーニング)では、午前中に各自がタブレットを使って文化センター周辺の散策しながら写真を撮影し、それらをプレゼンテーションにまとめて発表しました。操作の説明を聞き、画面とにらめっこをしながら良い発表原稿を作り上げようと意欲的に取り組んでいました。また、普段は人前で話す機会が少ない子どもたちですが、堂々と発表する姿が見られました。午後はSSTを通して、他のホームの子どもたちと指導員とで好ましい人間関係づくりについて理解を深めながら、充実した楽しい時間を過ごしました。



9月12日(月)に実施した「アクアマリンふくしま」での職場体験学習では、午前中に施設見学や釣り体験を楽しみました。釣りをするのは初めてという子どもがほとんどでしたが、餌を釣り針につけることも楽しみながら、かかった魚(アジとサバ)の動きに合わせて竿をうまくさばいていました。魚を釣り上げると子どもたちの拍手や歓声が聞こえてきました。釣った魚は唐揚げにして美味しくいただきました。午後は魚の餌作りと給餌の体験、バックヤードの見学を行い、そこでも水族館のスタッフと楽しく会話をしている場面が随所に見られました。普段の教室では体験できない活動を通して、人と人とのつながりや集団意識、勤労観、職業観を高めることができたと思います。10月以降も5回の合同行事を開催する予定です。

外国語教育研修より

今年度、外国語教育に関する講座として、「授業力向上講座Ⅰ」(小学校外国語・中学校英語)、「授業力向上講座Ⅱ」(小学校外国語・中学校英語)、「小学校外国語教育研修」の5講座を開催しました。それらの講座において、授業改善のためのキーワードとなっているのが「言語活動」です。

「言語活動」とは、「自分の考えや気持ちなどを伝え合う活動」です。例えば、一般動詞の疑問文を扱う単元で、Do you like~? を使ってパターンプラクティスやチャンツを行う場合は「練習」です。自分の好きなスポーツについて話し、友達にそのスポーツが好きかを尋ね、互いにやり取りする、という活動は、「言語活動」です。単元全体を見通し、単元のゴールに向けて「言語活動」を進めていくことが必要です。また、「言語活動」を実施する際には、次の手立てが有効です。

- ①授業の導入で、「言語材料」(習得すべき表現)をインプットする。
- ②「言語材料」を使う必要性のある「言語活動」を行う。
- ③「言語活動」の中での児童生徒の困り感を見取り、教師が必要な支援をする。
- ④再度、「言語活動」を繰り返す。

教師の先回りや教え込みではなく、児童生徒自身が学びの必要性に、自ら気付くことができるように支援することが大切です。そのために、児童生徒の興味・関心考えた「目的や場面、状況」の設定をし、「言語活動」を進めていくことがポイントとなります。Let's enjoy teaching English!

